

会 議 録	
会 議 名	令和4年度 第3回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和4年12月22日(木) 19:00~20:30
場 所	真庭市役所 本庁舎 2階大会議室
出 席 者	<p><出席委員> 9名 内田委員、江口委員、川崎委員、佐藤委員、庄司委員、高田委員、額田委員、二若委員、前田委員</p> <p><欠席委員> 5名 池田委員、小谷委員、杉本委員、松尾委員、安田委員</p> <p><事務局> 2名 健康福祉部子育て支援課 行田課長 健康福祉部子育て支援課 硯参事</p>
傍 聴 者 数	傍聴者 6人
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議 題 (1) 久世地域における園整備のあり方について</p> <p>4 その他 (1) 認定こども園について</p> <p>5 閉 会</p>

1 開 会

(事務局 行田課長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第3回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

本日は、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。

本日の会議の終了時刻は、午後8時30分を目安としておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして佐藤会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(佐藤会長)

～会長挨拶～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。

本日は、委員14名中9名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので真庭市子ども・子育て会議条例の第5条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、会議規則により、以降の進行は佐藤会長をお願いいたします。

3 議 題

(佐藤会長)

前回の会議を受けて、事務局から久世地域の園整備についての具体的な案をいくつか用意しているようです。まずは、事務局からそれぞれの案について説明をいただき、それに基づき、前回同様に委員同士で議論を深めてまいりたいと思います。

それでは、事務局から資料について説明をお願いします。

(事務局 硯参事)

～資料1により説明～

説明は以上でございます。

(前田委員)

これだけの案出し、苦勞されたんじゃないかと感じます。その上で質問は恐縮ですが、案①-1から5まで、久世保育園が小規模保育事業所に移行というのがベースになっています。先月の真庭市議会の広報で、北町公園を含め久世

保育園の今後の在り方の中で市長から、廃園にする方向だという文章が確かあったと思って驚いたんです。それからすると、久世保育園で小規模保育事業所を新設という案はそもそも当てはまらないんじゃないかなと思います。その辺はどう考えたらよろしいでしょうか。

(事務局)

この案の発想としては、久世保育園の機能を無くして、小規模保育所の機能に変えて行くというものです。結論ありきでなく、何がしか現有施設を活用し、工夫をしながらできることはないだろうかということも、私たちなりに考えているところです。市長の思いを踏まえながら、我々としては下から積み上げて案を上げていくために、担当課レベルではできる限り協議、議論を行っていきたいと思っておりますが、最終決定は、当然市長が行います。

(江口委員)

補足ですが、市長の発言は、新しい園が近くに建つということを踏まえた時に、同じ場所で同じ規模をそのまま存続させるというのは現実的ではないのではないかという趣旨だったかと思えます。園の数を減らすかどうかも決めておらず、あくまでも、あの場所にあの規模をそっくりそのまま残すというのは現実的でないという趣旨だったと理解しています。

(佐藤会長)

なかなかこれだけ案があると、違いがわからなかったり、いろいろ難しいものもあるのではないかとと思うんですが。

(内田委員)

色々な可能性があるのだということで、説明を聞きました。久世こども園に給食の施設を増設という案を聞いて、園児向けの給食提供ができるというのは理想的だなと思うので、良い方向に向かってほしいと思いました。

(前田委員)

①も②も他園を賄う規模の給食施設が必要という案があります。デメリットに用地取得ということも出ています。園を新設、もしくは改築する場合、そこでセントラルキッチンというような考え方をして良いのでしょうか。新たにどこか場所を決めてされるのか、それとも既存の例えば久世こども園に給食施設を集約するのか、それとも、例えば別に給食センターを設置するのか。センターの場合、園だけではなくて、例えば、小学校も含めるのかなどもある

と思います。そのあたり、既存の場所に整備するのか、別の場所にするのかなどが少し分からないところです。デメリットを潰していくのが一番の模索になると思いますが、こういう考えも議論につながるでしょうか。それともある程度は市で何か考えがあるのでしょうか。

(事務局)

まず、結論から申し上げますと、今は、市として特定の考えはありません。今のお話に出てきた関連としては、①-3は、久世こども園に給食施設を増設するという例えばの案。それから②-3は、二つの園を集約し新設した場合に、給食施設は他園も賄える規模とするという例えばの案があります。で、ここに無いのが、園とは別に給食センター施設のみを整備するという案で、ここではお示しできていませんが、そういった発想も当然一つの案だろうと思います。

(佐藤会長)

各園に自園給食が提供できる施設を整備するという案もあり得る訳ですが、財政的な面も調整していかなければならないということです。何をプライオリティとするのかで大きく変わってくると思います。

(前田委員)

落合地区の給食室を考えるとかなりの広さが必要なのかなと思います。久世こども園の敷地が一番広いと思いますが、もともと駐車場もあまり多くない状況で、仮に、久世こども園に給食施設を整備するとなれば、園庭がものすごく小さくなってしまわないかと思います。反面、私の認識では、こども園化される時に敷地内に、自園調理の施設が必要だったのではと思っておりますが、そうでなかったのは理由があったのでしょうか。ただ、考えていくと、やはりどこかに新しく整備しない限り、自園に給食室というのは、とても厳しいのではないかと感じました。

(事務局)

例えば、①-3案は、久世こども園に給食施設を整備し、他園も賄う案で、他園まで賄わなくても先ほどのお話のように自園調理ということでもいいと思います。ここにデメリットとしては、給食施設の敷地を確保するのは事実上なかなか難しいということを挙げています。もちろん、もっと工夫ができるんじゃないかなというのも一つのご意見だと思います。それと、もう一つ、久世こども園のこども園化に際しては、3歳以上が受け入れ対象でした。自園調理を求められるのが、3歳未満を受け入れる場合に必須ということで、敷地のこ

とも含めて、おそらく判断されたのだらうと思っています。

(佐藤会長)

今までの議論として、一番話題に上っていたのは、まずは施設の老朽化を何とかしようということで、特に久世保育園、久世第二保育園の老朽化です。二番目が、久世地域の子どもを受け入れ状態を考えて、0歳児から2歳児の受け入れをいかに増やしていくかということ。三つ目に、何とか幼児向けの給食が提供できるような体制を整えたいということだと思います。それと、私は3月まで県の子ども子育て会議の会長をしていたのでよくわかるんですが、この少子化時代に、一地域が定員増を言っても会議で認められないと思います。ですから、定員については増やすことは非常に難しく、現状の460名を上限として施設整備が必要なんだと思います。老朽化が解消できて、0から2歳児の受け入れが確保できて、何とか子どもたちに自園かセンター方式か別にして給食を搬入できて、なおかつ、定員を増やさない案はどういう案なのか。今は、財源のこととかあまり考えずに発言をしています。でも、この方向が、皆さんの求める最大公約数のポイントだと思います。皆さんの考えに近いのがどれであって、ここがもう少しこうなればもっといいですね、という議論ができれば、それを踏まえて行政から提案いただけるのかなと思っています。

(川崎委員)

たくさん案を出していただき、ありがたいなと思いました。もっと前からこういう話をしっかりして、新しい園に変わっていったりすれば、また違った話が出来ていたんじゃないかなと思います。たくさん案が出ていますが、何年ごろにそれをするのかというのが決まっていけば、みんなで考えを早く詰めることができると思います。考えている間に、建築年数は経過し、久世こども園も、あと5年で30年を迎え、また建て替えの話が出てくるようになると思います。私たちは、これまで地域の方と根強い関わりをしてきたために、いろいろな園をとというようなところまでは考えられなかったんですが、久世地域全体のこともしっかり話し合っていかなければならないと思います。

(佐藤会長)

これは10年、20年先の話ではなくて、遅くとも2、3年くらいのイメージで、実際できるかどうかわかりませんが、そういったイメージで議論をさせていただいているということでよろしいですか。

(事務局)

前回の会議でも、本当に実行してほしいんだという強いご意見をいただきました。久世地域の話は今回始まった話ではなく、かなり前から、議論しては消えというのを繰り返し替えていて、その時々事情はあったかと思いますが、方針が示せていない状況です。現状の0歳から2歳の受け入れが不十分なことから言っても、先送りできませんし、この場でのご意見も参考にしながら、何とか年度内に一定の方向性を示したいと思っています。財政的なこともありますが、すぐ来年度からでも何かアクションを起こせるようなぐらいの意識で、この議論を進めたいと思っています。

(庄司委員)

現状として、遷喬の共同調理場から搬入されている園の保護者はどのように思われているのでしょうか。また、子どもたちはどんな風を感じているのでしょうか。0～2歳児の食事は人間の基礎を作っていくので、とても大事だと思います。だから、自園で提供できるように考えてもらいたいです。保護者から、園のお昼ご飯は、栄養面を考えて提供されているのでとても助かる、との声をよく聞きます。今通っている人が、どのように思われているのかが気になるところです。

(事務局)

意見は把握できていませんが、米来と久世こども園については、自園で給食を提供することは、現在の敷地を考えると難しい状況のため、共同調理場に頼らざるを得ません。センター調理場があっても良かったのかもしれませんが、そこまで踏み込めていない状況です。保護者の意見に関わらず、園児向けの給食提供を考えると、再編整備に当たっては、自園調理は考慮すべきことだと思います。

(佐藤会長)

センター方式でも悪くはないと思いますが、自園調理だと匂いだとか、子どもが見に行ったりとか、食育ということを大事にされているので、可能な限りそういった方向も模索していけば良いと思います。また、調理室は、あまり広い面積は必要ないと思います。私が園長である附属幼稚園を、この度、幼保連携型のこども園に移行しますが、現在、もともとの会議室を潰して整備しています。外に作るだけでなく、中に空いている部屋とかを利用して整備するという可能性もあると思います。

(高田委員)

老朽化の年数に56年とかあるので、これは対応が急務だと思います。これを考えると、集約する②案の方が良いと思います。これにより、0～2歳児の受入れが増えるのであれば、より良いことだと思います。給食については、匂いを感じることは良いことだと思いますが、センター方式になったからといって、冷めたものが提供されている訳ではないので、悪いことだとは思いません。センターで給食を作り、新設の園を広く整備するのが、この案の中では最善なのかなと思います。

(額田委員)

このような議論の場があることは良いことだと思います。老朽化、給食、定員などありますが、もう一つ考えてほしいのは、持続可能な体制、全てを広げていくのは難しいこと、ここは維持して、ここは拡充するという方向に持っていくべきではないかなと考えます。

(二若委員)

蒜山地域も0歳児の受入れがなかなか難しい状況です。久世地域は、老朽化も課題であると思うので、②案のように早急に新設の園を整備してもらいたいです。蒜山地域も0歳児の受入れを充実させて、若いお母さんの早く働きたいという思いを実現させてあげてほしいと思います。また、新しく民間の園ができるのは、子どもたちにとって新しい園で受け入れてもらえることになり良いことだと思います。自園での調理は是非進めてもらいたいです。

(佐藤会長)

老朽化が一番の問題になってくると思うので、老朽化に対しては、そこで建て直す、もしくは他の場所に建て直すということになるので、その辺を考えると、地域のことや民間の園ができるということで、その関係性も考慮しながら議論していくのが現実的ではないかと思います。

今回、いつもより出席者が少ないですし、今日この場ですぐに考えが出てくるということでもないので、できれば、もう一度このような議論の場を設けることは可能でしょうか。

(事務局)

大勢の方のご意見を伺いたいので、年が明けて、再度このような場を設けさせていただければありがたいです。今日いただいたご意見を少し整理して、案に反映し、次回の資料を準備したいと思います。できれば、あと2回程度議論の場を設け、最終的にはご意見を引き取って、内部で検討を行いたいと考えて

います。この場で何かを決定ということではなく、引き続き、幅広くご意見をいただく場として議論をお願いできればと思います。

(佐藤会長)

委員の皆様には、持ち帰っていただいでご意見等あれば事務局に連絡していただければと思います。また、次回も、もう少し具体的に議論していただき、より良い園整備に向けて、また、年度内には方向性を示すことができるスピード感をもって進めていくということで委員の皆様よろしいでしょうか。

～異議なし～

(佐藤会長)

ありがとうございます。次回、事務局で更に精査した案を示していただいで、自由闊達な議論を深めていくということでよろしいでしょうか。

～異議なし～

(佐藤会長)

ありがとうございます。ご賛同いただいたので、次回も久世地域の園整備のあり方についてを議題とさせていただきます。

本日の議事は以上でございます。皆様のおかげをもちまして、活発な意見が出たと思います。委員の皆様には次回以降も引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは、事務局にお返しします。

4 その他

(事務局 行田課長)

佐藤会長、委員の皆様、活発なご意見をありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願ひいたします。

その他としまして、事務局より1点報告事項がございますので、担当者よりご説明させていただきます。

(1) 認定こども園について

(事務局 硯参事)

～資料2により説明～

説明は以上でございます。

5 閉 会

(事務局 行田課長)

委員の皆様、本当に今日はありがとうございました。閉会ということで、これで閉じさせていただけたらと思います。本日副会長の杉本委員がご欠席ですので、会長に閉会のご挨拶をお願いします。

～佐藤会長よりあいさつ～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。委員の皆様、本当に貴重なお時間、長時間にわたってありがとうございました。どうかお気を付けてお帰りください。